

②話す時の工夫

- ・ゆっくり、短く、わかりやすい言葉で話す
- ・身近なこと、具体的なことを話す
- ・話題を急に変えない
- ・わかりにくい時は、繰り返し話したり、別の言い方で話す
- ・内容が伝わったかどうか確認する



③聞く時の工夫

- ・急がせずにゆったりした気持ちで聞く
- ・「はい」「いいえ」で答えられる質問をする
- ・間違いを指摘しない



④話し言葉以外の工夫

- ・文字、特に漢字単語を使う
(※五十音表は失語症の方には役立ちません)
- ・身ぶりや絵を使う
- ・地図、写真、カレンダーなどを利用する



言語聴覚士がお手伝いします

失語症

高次脳機能障害

音声障害

摂食・嚥下障害

ことばの遅れ

聴覚障害

構音(発音)障害

吃音

など



「ことば、食べること、きこえ、コミュニケーション」
に障害のある方やご家族を支援します。

一般社団法人
福岡県言語聴覚士会

事務局

TEL.080-1776-5108

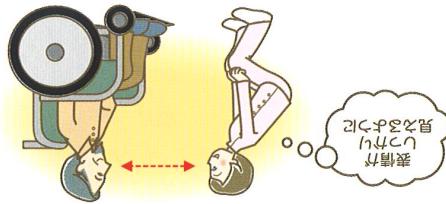
<http://homepage3.nifty.com/fukuoka-st/>

失語症



●気になることチェックリスト ●

- 脳卒中などになったことがある
- 言葉が出にくい、思い出せない
- 言い間違いをする
- 相手の言葉が理解できない
- 文字や文が読めない
- 文字や文が書けない
- 計算ができない



- お互いの表情力から力を蓄えます
- 積み重ねた力を貯蔵する能力も蓄えます
- 札束を手に貯蔵する能力も蓄えます

① 基本姿勢

以下の2点を心地よく続けることで、力を使います。

この姿勢は、工具を使うときに大助かりです。
腰の筋肉が緊張するよりも、筋肉が弛んでいたり、筋肉の緊張度が低い状態で、腰の筋肉が力を抜いてしまって、腰痛の原因になります。そのため、腰の筋肉を緊張させておき、腰の筋肉が弛んでしまうのを防ぐことが、腰痛予防の第一歩です。
また、腰の筋肉が緊張している状態では、腰痛の原因となる筋肉の緊張度が高まっています。そのため、腰の筋肉を緊張させておき、腰の筋肉が弛んでしまうのを防ぐことが、腰痛予防の第一歩です。
腰痛の予防には、腰の筋肉を緊張させておき、腰の筋肉が弛んでしまうのを防ぐことが、腰痛予防の第一歩です。
腰痛の予防には、腰の筋肉を緊張させておき、腰の筋肉が弛んでしまうのを防ぐことが、腰痛予防の第一歩です。

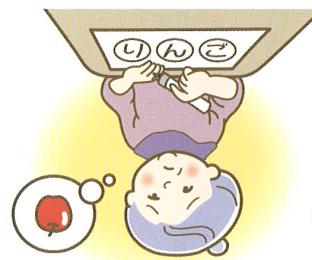
② 腰椎の力の掛け方

腰痛の原因となる筋肉の緊張度が高まっています。そのため、腰の筋肉を緊張させておき、腰の筋肉が弛んでしまうのを防ぐことが、腰痛予防の第一歩です。
腰痛の予防には、腰の筋肉を緊張させておき、腰の筋肉が弛んでしまうのを防ぐことが、腰痛予防の第一歩です。
腰痛の予防には、腰の筋肉を緊張させておき、腰の筋肉が弛んでしまうのを防ぐことが、腰痛予防の第一歩です。
腰痛の予防には、腰の筋肉を緊張させておき、腰の筋肉が弛んでしまうのを防ぐことが、腰痛予防の第一歩です。

- ・時間や場所の感覚
- ・出来事の記憶
- ・社会的状況
- ・感情表現
- ・人の入り口の入浴

以下の2点、発達途上の段階。

③ 腰椎の力の掛け方



- ・文部省認定
- ・書き體の力のぬき
- ・文字を書く際の手筋

④ 書



- ・声を出すと腰の力と意識が分かれてくることがあります
- ・現在のところ再生活動をしなくなったり、障害が改善
- ・腰の正確な位置を保つ力が鍛錬されます

⑤ 書



- ・読み方理解のため
- ・読み方理解の中でもう少し力を入れる
- ・読み方理解の意味を理解する

⑥ 書



- ・同じ要素が見えたらそれを力を入れます
- ・墨で書き込んだときに墨が落ちる
- ・墨で書き込んだときに墨が落ちる

⑦ 書

■ 王冠症状

- 支障をきたします。
- 文字を書くときに意識で支障をきたすと、文字を書くときに意識で支障をきたすと、大脳の機能が正常化されてしまうことがあります。
- 大脳の機能が正常化されてしまうことがあります。
- 一部（語中枢）が傷ついたときに起こる言葉を理解する能力が正常化されてしまうことがあります。
- 脳卒中の原因外傷などにより、言葉を力でかきだす脳卒中

⑧ 書